

世界はおなじ、ただ一つ

東中学校3年 佐野 史奉

世界には、国や性別、障害などで差別され、苦しんでいる人たちがたくさんいます。例えば、教育を受けられる女子の割合が男子よりも低かったり、障害を持つ人の雇用や教育の機会の制限があったり、肌の色、生まれた場所で差別されるなど、その差別で暴力や制限につながっていることがたくさんあります。そのような人権問題の原因として差別や偏見、貧困、紛争などがあると思います。人には生まれながら持つ権利があり、その一人ひとりの権利を守り、尊重する必要があると思います。私は人権を守ることで、差別によって苦しんでいる人たちを救うことができると思います。そして、その人権を守るために自分たちにできることがあると思います。

私は、1回差別を経験したことがあります。自分が昔、メキシコに住んでいたときにコロナが流行っていた時がありました。家族でタクシーに乗った時、運転手の人に日本人ですかと聞かれ、そうだと答えると嫌な顔をされ、窓を全開に開けられました。その時とても空気が悪くなりました。日本人だからコロナを持っているわけではないのに、なぜ差別されてしまうのかと私は思いました。その時期はコロナが流行っていて、感染したくないということもあり、しょうがないと感じたところもありました。けれど、自分が出身国で判断され、差別されたと思うと、とても悲しい気持ちになりました。出身国は自分で決められないし、最初から決まっていることで人を苦しめる事はしてはいけないと思いました。この経験があってから私は、なぜ差別が起きてしまうのかということを考えていました。なぜなら、差別が起きることに何か理由があると思ったからです。それは、私は経験したときのように、日本人やアジアの人だからコロナを持っていると言うような決めつけた印象を持ってしまっているということです。世界の差別には性別や人権、障害などがあり、その原因として決めつけてしまっていることがあると思います。例えば、性別だったら、それぞれの役割について

「男性は外で働き、女性は家事をする」という印象を持っているとします。そこで男性は外で働いて、女性は家事をすると決めつけてしまうことから差別が始まってしまいます。そしてその決めつけたことが無意識なうちに行動になってしまったり、持っている印象で相手を判断してしまったり、差別となってしまうものです。生活していく中で、人の印象や物事の印象を持つのは当たり前のことで、悪いことではないと思います。しかし、だからといってその人が本当にその印象であるとは限りません。自分たちの知らない面があり、その面を見ないとわからないことがあるのです。私はそこから差別に繋げないようにするために自分が思っている印象だけではないことを一人一人が理解する必要があると思います。そして、自分の知らない面を知るために、最初から決めつけるのではなく、他の一面を見ることが大切だと思います。また一人ひとりの考えは違うので、必ず同じはないと言うことを頭に入れることが必要であると思います。

私は差別をこの世界からなくすために一人ひとりを見る価値観を持つ必要があると思います。一人の人と見ることによって人それぞれの意見や考えがあり、それを大切にするという意識を持つことができると思います。そして一人ひとりの大切さ、存在に気づくことができると思います。みんなが同じこの地球という世界に生まれたのだから、同じ世界に人として生まれたのだから、そのありがたみを感じ、みんなが尊重し合う世界が私の思う「一つの世界」だと思います。

私の思う「一つの世界」を作るには、ただ差別をなくそうという考えだけでは解決することができません。世界中の人が行動に移さないといけないのです。一人ひとりの人と見るために、相手の立場になって物事を考える必要があると思います。そうすることで今まで自分の持っていた印象やその人の事について知ることができ、自分の世界が広がると思います。世界のことを自分事として考え、同じ世界で生きているからこそ、お互いで助け合って、生きることが大切なことだと私は思います。

みんな違ってみんないい

東中学校3年 曾根 衣織

私の親戚は、韓国から日本に来ました。来たのは幼かった頃で、日本語もあまり話せなかったそうです。私が小さい頃からずっと近くに住んでいて、いつもニコニコしていて、料理が上手で、優しい人。でも、ある日聞いた話で、そんな親戚が昔すごく辛い思いをしていたことを知りました。「前にね、日本語が全然わからなかったから、病院でうまく説明できなくて、すごく困ったことがあるの」ある日、みんなでご飯の後に親戚がポツリと言いました。私はびっくりして「へ、それってお医者さんが助けてくれなかったの？」と聞いたら、「助けてくれたけど、ちょっと冷たかったかな」と、寂しそうに笑っていました。

さらに「学校の面談の時もね、先生が私の話をちゃんと聞いてくれなかった気がする」と言って言った時、私はなぜだかすごく悔しくなりました。親戚の人は何も悪くないのに、ただ日本語が話せなかっただけで、そんなふうに見られていたんだと思うと、胸が苦しくなりました。

親戚の人は、韓国大学も出ていて、とても勉強ができる人だったと聞きました。でも日本に来たら、「外国人だから」と言われて、アルバイトもなかなか見つからなかったそうです。小さい私にそういう話はあまりしなかったけれど、大人になってきた私に少しずつ話してくれるようになったのです。

私は今まで外国人とか人権とか言う言葉は、どこか遠い世界のことのようになっていました。でも、身近な人がそんな体験をしていたと知って、「これは私にも関係あることなんだ」と思いました。

今の日本は、いろいろな国から来る人がたくさんいます。コンビニやレストランで働いている人、学校に通っている子、近所に住んでいる人など…。でも、そういう人

たちに対して、きつい言葉を言ったり、差別的な目で見たりする人がまだいることを私はニュースや SNS で知りました。正直、悲しくなります。もし、自分が言葉の通じない国に行って、誰にも助けてもらえなかったら、どれだけ心細いか、もし自分が外国人と言うだけで「関わりたくない」と思われていたら、どれだけ辛いか。親戚の人を聞いたことで、私はそんなことを想像するようになりました。人権と言うのは、特別なものじゃないと思います。「誰もが自分らしく生きられること」「違いがあっても、安心して暮らせること」だと私は思います。

言葉や見た目、文化が違っていても、私たちは同じ人間です。だからこそ、違いを蔑んだり、馬鹿にしたりするのではなく、お互いを知ろうとする気持ちが大切だと思います。

私はこれから先、もし外国から来た人が困っていたら、声をかけられる人でいたいです。わからないことがあっても、スマホを使って翻訳することだってできるし、優しい気持ちでいれば、きっと伝わると思います。そして、親戚の人たち「日本に来てよかった」と思ってもらえるように、私自身が優しさを忘れないでいたいです。親戚の人だけではなく、他の外国人さんなどに思ってもらいたいです。私にとって人権は遠い話じゃなくて、大切な家族のことでもあるから。